第３学年　社会科・総合的な学習　学習指導案

屋久島町立神山小学校　　講師　　早坂　天地

１．単元名　　「摘果みかんお助けプロジェクト」

２．単元の目標

- 摘果たんかんの課題を解決する活動を通じて，農家の抱える問題や製造過程で生まれる食品ロスについて気付くことが出来る。（知識・技能）
- 摘果たんかんの課題を解決する活動を通じて，創造力を働かせて使い道を考えたり,加工したりすることができる。（思考・判断・表現）
- 摘果たんかんの課題を解決する活動を通じて，自ら計画を立てて,実行に向けた準備を進め,グループごとに協働することができる。（主体的に学習に取り組む態度）

３．単元について

（１）教材観

本単元では,「摘果たんかん」を教材として取り上げる。

社会の授業で学んだ摘果・間引きを社会科見学で実際に体験をさせることで,製造過程で発生する食品ロスについて気付き，摘果たんかんについて考える。実際に摘果たんかんを加工する活動の中で，自分の思いや楽しさを感じながら，活動への意欲を高めていくことができる。同時に，これまでのインターネットの活用をする力や，地域の特産品について学んだ成果を活かす力を養うことができる。

また,摘果による食品ロスに気付くだけでなく，活動を通して自分自身も成長しているという喜びや，自分の力で加工することができたという自信をもつことも期待できる。また,自身で計画し,実行する中で問題解決能力を素養することが出来る良さがある。

（２）児童観

本学級の児童は，社会科の時間でたんかんの摘果体験をしている。この活動を通して，摘果によるみかんの破棄について学んできている。また，総合的な学習の時間に神山校区の特産品としてのたんかんの学習にも取り組んできている。さらには，農業を生業としてたり,家庭菜園をしていたりする家庭も多くあり，活動意欲をもっている。

また，身近なことから課題を見つけたり，教師や友だちとの対話を通して考えをもち，話合うことができたりすることができるようになったこの期に本課題を取り上げる意義は大きい。

（３）指導観

本単元の指導に当たっては，まず，摘果農作物への課題意識を持たせる。そのために,社会科の「農家の仕事」にて,農作物を育てるための工夫や農作物スケジュールを学ぶ中で,農作物を育てるためには摘果・間引きを行うことが不可欠であるということに気づかせる。併せて,社会科見学等で実際に摘果・間引きの作業を行い,まだ食べることが出来る農作物が破棄されているという課題を実際に体験させ,摘果される農作物が実際には利用価値があることに気付かせる。

次に，解決の見通しをもたせる。摘果したたんかんを持ち帰り,家や学校で何かに利用することが出来な

いか考え,共有する。共有した情報から,利用方法ごとにグルーピングをして,摘果たんかんの持つ魅力(爽やかなミカンの香り・かぼすのような酸っぱさ等)を考えさせる。そこから魅力を活かした利用をするために,何を作成することが出来るか話し合い,そこで出たもの(ジュース・アイス・ゼリー・調味料・入浴剤・香水等)を実習として取り上げる。尚，実習に向けて，可能な限り児童たち自身で準備(Ex.①自分で作り方を本やインターネットで調べる②実習で必要なものを準備する・保護者に確認する③農家に頼み,摘果たんかんを用意するなど)を進めさせることで,問題解決能力の育成にも繋がる。実習時には有効利用方法を対照出来るように,グループごとに作成方法や味付けなどを変えて,比較する。実習後,作成したものをよりよくするために改善点を考えさせる。加えてよかった調味料や味付け,作成方法を試し,次年度に引継ぐ。

そして,実習でできた成果をバザーに出店する。それに向け,摘果たんかんが破棄されているについてや,作成方法をまとめたポスターを作成させる。まとめる過程で学びを整理し,自身が得た学びを実感できるようする。それらの活動を踏まえ,社会科見学でお世話になった農家の方への発表作りを行う。

さらには，これらの活動を通して，農家の抱える課題に対して意識を持ったり，解決方法を考えたりできるよう，他の教科でこれらの活動を広げられたりするようにする。

（４）ＥＳＤとの関連

・本学習で働かせるＥＳＤの視点（見方・考え方）

多様性･･･摘果たんかんを加工するには，いろいろな方法があり，味付けや作成方法によって様々な形になるということ。

相互性･･･自分達が食べている農作物は農家の方が育てており，自然の力と人の力で成長しているということ。

責任性･･･自分で計画をし，実習に向けて準備をすることで,みんなで役割分担し協力しなければプロジェクトは成功しないということ。

・本学習で育てたいＥＳＤの資質・能力

多面的・総合的思考力

摘果みかんの使い道を考えたり,作成するために必要なもの・ことを考えたりする。

批判的思考力

上記で考えたことを立ち止まって疑うことや,作成したものをよりよくするためにはどうすればいいのかを導く。

・本学習で変容を促すＥＳＤの価値観

自然環境・生態系の保全を重視する価値観

農作物を育てるには，製造過程で食品が生まれてしまうため，環境整備をしていかなければならない。

幸福であることを大事にする価値観

たんかんを食べられているのは，農家の方の苦労があり，製造過程でたくさんのたんかんが捨てられてしまっていることを知り,感謝の気持ちをもって農作物を食べる必要がある。

・達成が期待されるＳＤＧｓ

２　　飢餓をゼロに

１２　つくる責任つかう責任
１５　陸の豊かさを守ろう

４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①たんかんを製造する過程で摘果によって大量に捨てられていることに気付いている。 ②計画した通りに実習に向けて準備している。	①お土産屋に売っている商品やインターネット・書籍を基に，加工するものを決めている。 ②想像を働かせ，摘果たんかんの魅力に気付いている。	①自ら摘果たんかんの魅力を活かそうとしている。 ②友だちと自分の役割を考え，実習に向けて準備している。

５．単元の指導計画（全 18 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	○社会科見学 ・農家の工夫やスケジュールを学ぶ。 ・実際に摘果の作業を行う。 ・摘果によるたんかんの大量破棄に気づく。 ・摘果たんかんへの課題意識をもつ。	・社会科見学に行く前に収穫スケジュールや摘果の確認を行う。 ・農家の方に摘果によるロスの話をしてもらえるよう依頼する。 ・**農家の方に**摘果や間引きの作業をさせてもらえるよう依頼する。	△ア① ・社会科
2	○摘果たんかんの利用方法について考える。 ・宿題で摘果たんかんの使い道を考える。 ・考えてきた使い道を共有する。 ・使い道から摘果たんかんの魅力を考える。 ・実習で何を作成するか決める。	・実際に家に持って帰らせて，利用できるようにする。 ・ロイロノート等で共有し，他の児童の意見を互いに見れるようにする。 ・出された使い道を視覚的にグルーピングし，共通点等を探せるようにする。	△ア② △イ①
3	○実習に向けて準備する。 ・作成方法を考える。 ・実習に必要なものを確認する。	・調べ方は本かインターネットか選べるようにする。 ・行えないことを予め定めて，制約内で実習内容を決めさせる。（火・刃物の使用など）	△ア② △イ② △ウ②
4	○実習 ・作るためにはどのようなことが必要なのかを学ぶ。 ・作成する苦労や工夫を知る。	・実習に必要な道具が必ずグループにあるように保護者に協力を仰ぐ。 ・お土産屋にある商品等を想起させ，どのような工程があるのかを考えさせる。	△ア② △イ② △ウ②

5	○成果の振り返り ・グループごとの工夫や味付け。作成方法の違いを共有する。 ・グループごとに比較し,よりよい方法を検討する。 ・検討した結果を次年度に引き継ぐ。	・自分たちの作成したものを客観的に評価する。難しい場合は点数をつけさせる。 ・お土産屋にある商品等を想起させ,自分たちが作成したものとの興津店や相違点を見つけさせる。 ・予め失敗してもよいこと,これから改善していくことを伝える。	△イ② △ウ①
6	○バザーに向けた準備 ・ポスターやポップを作成する。 ・価格設定をする。	・他の学年や去年の様子を見せ，ポスターやポップの必要性に気づかせる。 ・他の学年やバザーの様子を見せ,完売することが出来る価格に設定するように伝える。	△ア① △ア② △イ② △ウ①
7	○バザーに出品する。 ・溌溂としたあいさつや敬語を使うことを身に付ける。 ・作成したものの魅力や作成過程を口頭で説明できるようにする。	・お客さんに注目してもらえるようにするためにはどうしたらよいのか考えさせる。 ・よい接客と悪い接客の例を見せ,敬語や挨拶の大切さに気付かせる。 ・児童の特性によって接客や会計,包装係などに分ける。	△ウ②
8	○振り返りをする。 ・農家の方に自分たちがどのような意図をもって作成したのか説明する。 ・作成するためにどのような方法で調べ,まとめたのかを振り返る。	・成果と課題を視覚的に捉えやすくするため，色を分けて板書していく。 ・問題解決活動に，全員が満足感を得られるよう，農家の方からコメントをいただく。 ・加工の様子を記録した写真を提示し，これまでの活動を振り返りやすくする。 ・今後の活動へと発展させるために,人々の働きや農家のほかの課題に着目させるようにする。	△ア① △ウ②